

## (10) 九 州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直ししている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は悪化している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (\_は上方に変更、\_\_は下方に変更)

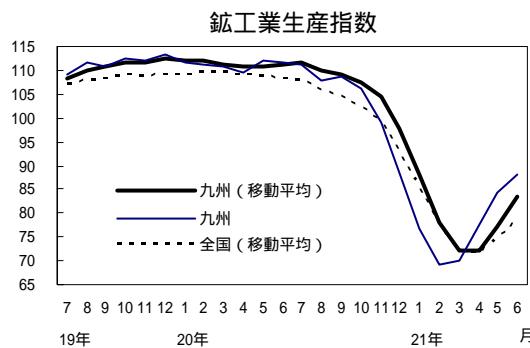
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
景況判断	緩やかに悪化	持ち直しの動き	
鉱工業生産	下げ止まりつつある	持ち直している	
個人消費	緩やかに減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	急速に悪化	悪化	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は持ち直している。

電子部品・デバイスは、引き続き在庫調整が進んだこと等により、モス型計数回路（ロジック）やシリコンウエハを中心に大幅に上昇した。輸送機械は、在庫調整の進展や受注の増加から、普通乗用車や鋼船等が大幅に上昇した。食料品・たばこは、おおむね横ばいとなっているほか、夏向け需要を見込んだ清涼飲料、水産練製品等の在庫が上昇している。一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置や半導体製造装置等が大幅に減少している。化学は、医薬品、スチレンモノマー等が大幅に増加した。



(備考) 1.17年 = 100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2.全国及び九州の大線は後方3か月移動平均。

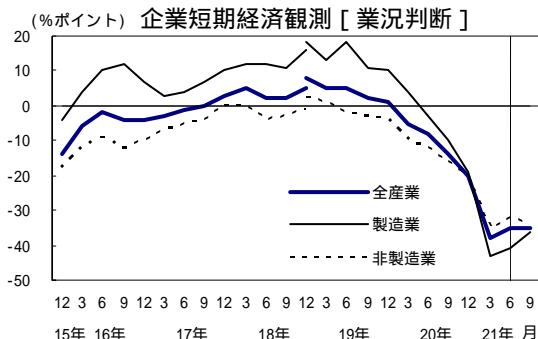
	付加価値 ウェイト	域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)		
		生産		出荷
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	15.6	49.2	54.2	53.7
輸送機械	15.4	32.0	36.3	36.9
食料品・たばこ	10.6	2.1	0.7	0.7
一般機械	10.6	28.4	19.1	22.4
化学	8.2	22.3	38.7	34.8
鉱工業	100.0	26.5	15.7	15.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

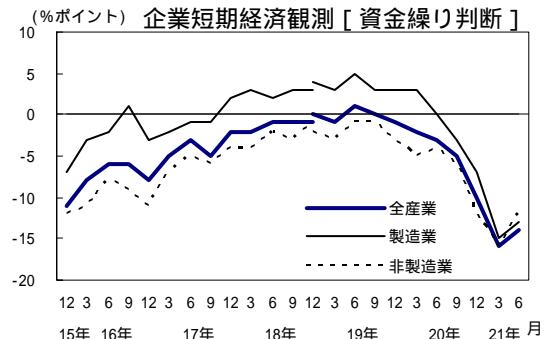
2. 4~6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

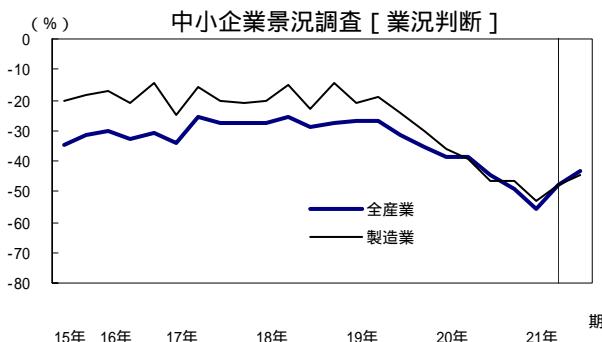
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のD.I.

#### 景気ウォッチャー調査(5月)[企業動向関連(現状)]

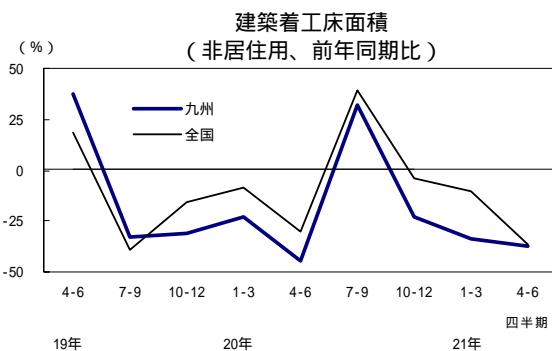
「全体の物件量は依然増えない。ただ中止や延期となった物件の工事が再開したり、時期がずれて着工したりしており、下げ止まりの感がある(家具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (6月調査) ]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	7.1(-2.4)	12.1(-3.5)
製造業	16.8(-1.1)	30.8(-9.4)
非製造業	1.5(-3.2)	1.4(-0.3)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

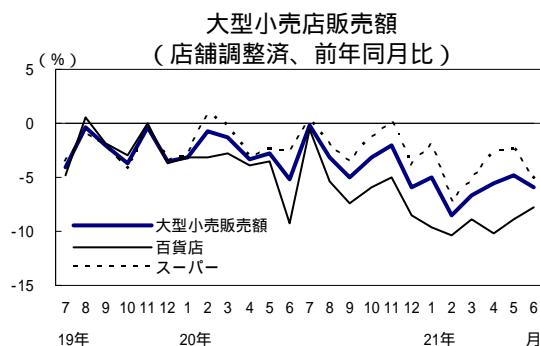
### (1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

#### 大型小売店販売額

百貨店は、4月は、消費者の生活防衛意識が依然として高く、衣料品や高額商品が引き続き不振であったことなどから、前年を下回った。5月は、昨年に比べ土日がそれぞれ1日ずつ多かったものの、母の日需要も単価下落傾向にあったほか、衣料品や高額商品が引き続き不振であったことから、前年を下回った。6月は、クリアランスセールの前倒しや値頃商材の拡大などにより一部に動きがみられたものの、消費者の生活防衛意識が依然高いなか、前年に比べ日曜日が1日少なかったことや、父の日需要の単価下落傾向などから、前年を下回った。九州百貨店協会による7月の九州地区売上高は、前年同月比で11.2%減となっている。スーパーは、引き続く内食化の傾向等から飲食料品は堅調に推移したものの、消費者の生活防衛意識が依然として高いことから衣料品などの不振が続いている、全体としては前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(6月)[家計動向関連(現状)]

「セールがどんどん早くなっている、正価販売品を買う時もセールに備えて控えめになっているため、客単価は低い。これまで定価で買っていた客もセールでの購入機会が増えている(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



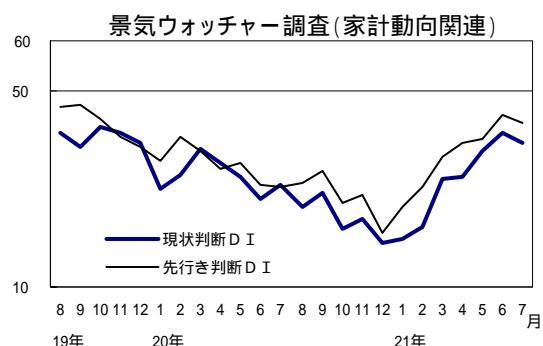
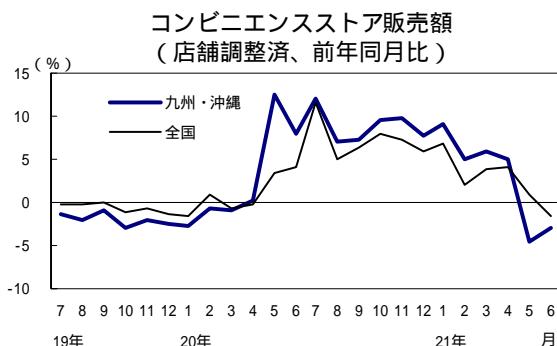
(前年同期比 %)

	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	2.6	4.0	6.6	5.5
百貨店	4.0	6.7	9.6	8.9
スーパー	1.7	1.9	4.6	3.4
乗用車	0.1	11.2	18.9	14.3
景気ウォッチャー	28.8	21.5	24.8	37.2

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済、九州・沖縄地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

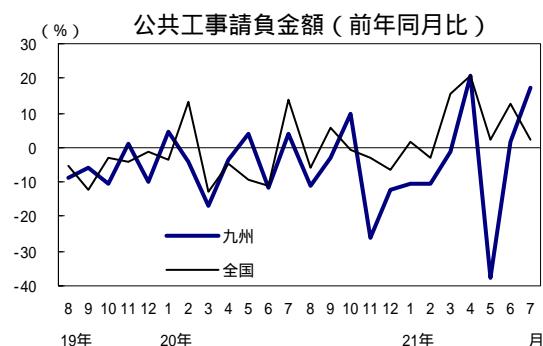
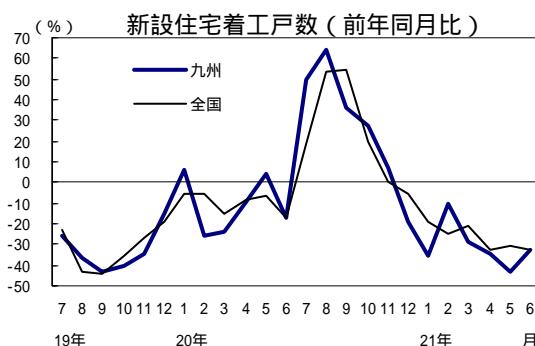
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



### (2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家及び分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

### (3) 公共投資は21年度累計でみると前年度と同水準となっている。

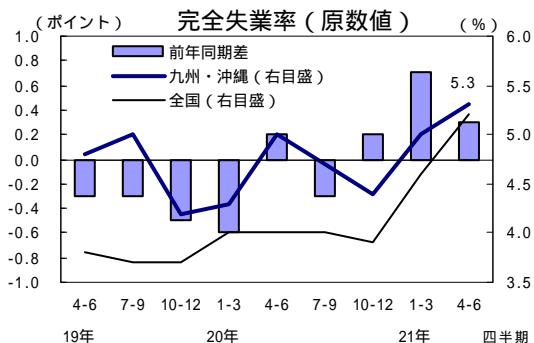
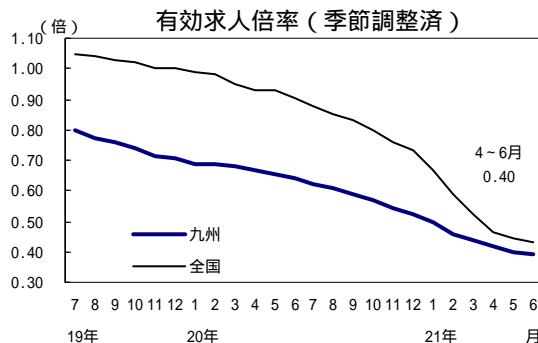


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(6月)[雇用関連(現状)]

「自動車産業の多い北部九州でも環境対応車の需要が増え、求人が増えており、一時帰休が解除になる動きがある。しかし、以前の水準にはほど遠く、現状と変わらない状態が続いている(新聞社[求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

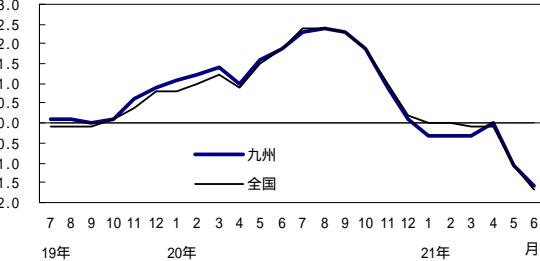
(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

#### 企業倒産

	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数	357	364	266	283	93
(前年比)	11.2	17.4	15.0	19.6	16.2
負債総額	1,575	1,916	1,108	1,028	173
(前年比)	76.6	25.8	39.4	39.9	24.8

#### 消費者物価指数

(生鮮食品を除く総合、前年同月比)



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 競争の激化等、受注環境の厳しさは続いているが、3か月前に比べれば引き合い案件も若干増加傾向にあり、1億円以上の大口案件も出始めている。単月ではあるが、受注額も前年比40%程度増加している(その他サービス[物品リース])。

<先行き>

- 天候不順や過去に選挙時期に売上が減少したことを考えると、数か月先の販売状況は明るくない(スーパー)。

#### 景気ウォッチャー調査(合計)

